

# 職人技の金型と一貫工程管理でプレス加工の総合力を磨く

株式会社東栄 奈良県奈良市

株式会社東栄は、空調用のダクト、建築用金具、照明用アルミ枠などを生産する金属製品プレス加工の企業である。

海外の低価格製品に押されがちな業界ながら、設計から金型製作、プレス加工まで、自社の熟練従業員による一貫生産体制を基として、多品種・変量生産への柔軟な対応と顧客の抱える技術的課題への対応力で信頼を得ている。

その顧客の信頼は、他社にない金型技術と、高品質化や工程効率化に常にチャレンジするものづくり企業の原点ともいうべきものを、人材を大切にしている企業方針により、あたりまえのように築いてきた総合力からもたらされている。

## 会社概要



会社名：株式会社東栄  
 所在地：奈良県奈良市石木町 466  
 電話：0742-44-2881  
 F A X：0742-48-0440  
 創業：昭和43年（創業昭和38年）  
 代表者：代表取締役 東中 良一  
 資本金：1,500 万円  
 従業員：正社員 36 名  
 事業：プレス加工、アルミステン溶接加工組立、金型製造、新製品開発



本社社屋全景

## 一貫生産と創意工夫で環境変化に対応

株式会社東栄は、東中良一社長が、大手電機メーカー勤務時代に身に付けた技術を元に昭和 38 年に創業したものである。当時、主力製品とした錠前のシリンダー製造において、いくつかの金型で順送プレスし複雑な形状を作り出すトランサープレス技術を培い、その後も、常に工程の高度化を図る姿勢で発展の土台を築いてきた。

一時は、ゲーム機の構造用金具などで数千万個単位の受注もあったが、今ではほとんどが低コストの中国での生産に取って代わられた。

しかし、自社内での一貫生産体制を基とした高い技術力を武器に、受注環境の変化への対応力を備え、生産ロットは低下したものの、発注企業の様々なニーズへの対応、生産工程の効率化などにより、売上と収益の確保を図っている。

複雑な形状の製品をより短い工程で生産する技術力



空調部品（上）とシャッターホイール（左）



照明器具用のアルミ加工部品

## 多品種・変量生産、問題解決型加工業へ

今、日本の中小企業には多品種・変量生産への柔軟な対応力が求められている。そのため、設計と工程には常にチャレンジ精神をもってあたる。

早い時期から設計や加工にCAD/CAM、NC（数値コントロール）プレス機を導入し、さらに、複雑な形状の加工工程について、従業員の創意工夫を引き出し、効率的・低コストな方法を顧客への提案に結びつけている。



同社競争力の原点、金型製作（上）と加工ライン（中）



いち早く立体自動倉庫も導入し効率化に対応

また、金型の製作は、発注顧客からすれば、自社新製品の最先端情報に直結するので、技術・品質が優れているだけではなく、外部に情報が流出しないという信頼を得ることも重要となる。

すなわち、信頼のおける優秀な人材を育てることが同社の競争力に直結している。社長は、「考える姿勢を身に付けさせる。チャレンジ精神を植え付けることで、優秀な技術者、職人に育っていった」と語る。

整理・整頓・清掃・清潔・躰のいわゆる5Sを

徹底させ、技術面では、有名大学の教授を顧問に迎え、主として金型製作における技術や金属の性質に関する知識についてアドバイスを受けた。

昭和59年には、機械・金属加工の優秀な企業がひしめく東大阪に工場進出し、大阪方面の大口顧客へのより細やかな対応力を強めるとともに、技術力、ひいてはものづくり力の優れる大阪のライバル企業への対策とした。これはまた、自社の技術力向上においての刺激にもなったという。

その他、自社単独あるいは共同による特許権、実用新案権の取得にも挑戦し続け、振動感知器を組み込んだパターン練習機や、空調ダクト工事などの足場の悪い狭い所でも扱い易い小型軽量の板切断機といった、ユニークな開発も手がけている。

### 人と人とのつながりこそが競争力の原点

金属加工、プレスといえば3Kの職場とみられがちで、若い人には敬遠する人も多いという。

「人材を確保するためには、コミュニケーションが最も重要」と社長は語る。そのため、月一回の全体会議の他、現場とのコミュニケーションには常に気を遣う。

社長が、社訓に掲げ、事業の柱に置く「品質の向上」「創意と工夫」「熱意と意欲」。これらは、仕事に対する熱心さと向上心、企業への帰属意識が前提となるが、さらにその基は、人を大事にすることとコミュニケーションであろう。

社長の人生哲学は、人と人とのつながり、感謝、人間性、気力、つまりは人として自然のルールの下で生きることである。

そこで従業員を伴っての「大峯山」登山を毎年の恒例としている。今は、万一の危険性を考えて一部の希望者のみを帯同するようになったが、自然との共生の中で絆は一層強まる。

人と人でしか伝わらないものを培う。日本のものづくり企業、特に中小企業の競争力にとって、いたずらに先端技術、高性能設備を誇るよりも、さらに重要なことといえよう。

（山城、島田）